

様式5					
松伏町学校評価システム					
	学校評価報告書			学校名	松伏第二中学校
				実施日	令和4年1月7日

NO	評価項目	学校自己評価	学校自己評価についての評価の説明及び改善策等	学校関係者 評価委員評価	学校関係者評価委員会の意見等
1	学校は、特色ある学校づくりに取り組んでいる。	3.6	校長は、年度当初から職員会議等で特色ある学校づくりを目指す経営ビジョンを示し、めざす学校像を「生徒の資質・能力を伸ばし、安心安全・快適で潤いがあり、学校・家庭・地域との絆と信頼がある学校」、めざす生徒像を「自立する力をもち、進んで学習し、互いを認め、思いやりの心をもち、夢や希望を持って、たくましく生きる生徒」として全職員でその達成へ向けて取り組んでいる。学校だより等を通して家庭や地域に情報を提供し、保護者・地域住民・関係諸機関等、多くの人が集まる行事等で丁寧に説明している。今後も本校の特色を明確にする取組をより具体的に示し、説明する機会を増やしていく。	3.6	・目指す学校像、生徒像、教師像は、家庭・地域のニーズを踏まえたものであり、十分浸透している。 ・校長先生の学校づくりのビジョンを明確に感じる。 ・コロナ禍でも修学旅行の実施、体育祭、しらす祭りなど、多くの生徒が楽しく充実感を得ている。
2	学校は、積極的に生徒指導に取り組んでいる。	3.6	生徒指導主任を中心に、家庭や地域、関係機関と連携を図りながら積極的に生徒指導に取り組んでいる。校内では生徒指導委員会を週1回開き、組織として教職員全体で情報を共有し、連携を図っている。「共通理解」「共通行動」を合言葉としている。保護者の価値観が多様化する中で、個別に丁寧に連絡を取り、協力を得ていく。今後は、情報交換だけではなく個々の生徒理解に努め生徒の心身の成長に寄り添った指導をしていく。また保護者や地域の理解を十分に得ながら生徒指導を継続していくことが重要であると考える。	3.2	・体育祭がしらす祭り等の行事が見られなかったのは非常に残念である。 ・なにかあればすぐに対応してくれる先生方が多いと聞いて安心している。 ・先生方と生徒の信頼関係の強さを実感している。また、生徒の規律ある行動に感心している。 ・家庭との連携を取るツールとして活用してほしいが、現状は積極的に進んでいない。 ・コロナ禍で先生と保護者の交流がない中、学校は積極的に動くべきである。
3	学校は学校教育目標の実現に取り組んでいる。	3.6	教務部で定期的に確認し、適正に授業確保を行っている。教科等の指導の重点は、年度当初に「シラバス」によって生徒・保護者に周知している。「教育活動の反省」により、指導の重点について振り返り、校務分掌活動を活性化させ、教育活動の検証を通じて改善・工夫ができています。今後も更に新学習指導要領を熟知し、指導法の工夫は十分か、教員一人一人が真摯に意識していくことが重要である。	3.8	・学校教育目標「認め合う」の実現に向けて、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を行っている様子が伺える。 ・学校だより等の活用で保護者への学校教育目標の周知、共有に努めてほしい。 ・感染防止対策という新たな責務が加わったことで、校内の緊張感が増す中、それぞれの状況に対応した改善・工夫ができています。
4	学校は、学力向上に取り組んでいる。	3.4	ベース学習において、毎日10分間、計算の基礎基本の定着を図る等、基礎基本の習得に力を入れてきた。練習問題を授業中に意図的に行うなど、繰り返しによる指導を意識して今後も取り組む。家庭学習の生徒の取組は二極化しているので、より個に応じた指導体制を構築していく。定期試験前にはステップアップの日を設定して、試験範囲について個別に質問できる時間をつくっている。また、夏休みには補習を行っている。学年や教科によってまだばらつきがあるなど、個に応じた学習は更なる研究が必要である。これまでの取組の効果について検証し、改善していく。	3.4	・3年間で結果を出すことは難しい面もあるが、学習する意義を生徒一人一人に徹底していただきたい。 ・生徒を元気にするためには、支える先生の力や存在がとても大きいと思います。コロナ禍で先生方のストレスや負担増が心配です。 ・教員の数が増えなければ変わらない。先生の業務が多くなり、保護者の期待が増える中、学力はいつも課題とされている。
5	学校は豊かな心を育む授業に取り組んでいる。	3.5	道徳の教科化により、「考え、議論する道徳の授業」について研修を深めてきた。自らの考えを表現し、他者の意見を傾聴できる寛容な心を育てていくことに重点を置いて指導をしている。担任だけでなく、学年の職員がローテーションで授業を担当するなど、全職員で取り組み授業体系も構築されてきた。生徒の心に迫った授業を展開していかなければならない。	4.0	・生徒一人ひとりがよく話を聞く態度ができています。これからも思いやりのある優しい生徒を増やしてほしい。 ・この頃の生徒達は以前より穏やかであり「豊かな心」が育っているか分かりませんが、多様性が認められていると思います。
6	学校は、「規律ある態度」の育成に取り組んでいる。	3.5	全体的には挨拶ができていますが、もう一段階上の心のこもった自ら挨拶をする指導が必要であるとの意識が職員の中にあり、指導が不十分であると反省に記入する職員が多かった。生徒が進んで、よい挨拶ができるよう指導していくことが課題である。言葉遣いについては教職員の率先垂範のもと、潤いのある人間関係づくりに欠かせないものとして引き続き指導していく。規律ある態度については、職員は一生懸命取り組んでいる。経験年数にかかわらず、同じように指導できるよう協働体制を整えていく。指導のチャンスを逃さないように、今後もアンテナを高くしていく。	3.6	・校内で生徒とすれ違う時、よく挨拶をしてくれて気持ちがいい。 ・教職員、生徒ともに学校に行くと挨拶を最初にしていただける。 ・挨拶について物足りなさを感じる。 ・先生方の挨拶について、手本になっているとは言えない。
7	学校は、児童生徒一人一人を大切にしている。	3.6	悩みや相談に適切に応え、生徒の良さをクラス・学年に伝えることができています。「よさ・とりえ」の木の取組を活性化し、教師と生徒、生徒と生徒の認め合う関係を深めていく。「生活アンケート」にあがった悩みに適宜対応し、家庭との連携だけでなく日常生活から教職員が一人一人の生徒に目を向け変化に気づく努力をしていく。学校行事では縦割り活動(カラー活動)により上級生の活躍の場があり、一人一人が生き生きと活動している。今後もさわやか相談員やスクールソーシャルワーカーと密に連携して、個々の悩みに対応していく。	3.4	・体育祭やしらす祭り等を是非参加したかった。 ・集団生活に馴染みのない生徒の対応は十分できている。 ・不登校の生徒のため、入りやすい相談室を増設して対応している。 ・集団教育に重きを置きながら、教員数が少ない日本で、達成できることは厳しい。二中の先生方は良くしてくださっています。 ・不登校生徒の取組をさらに頑張してほしい。

8	学校は、「健康・体力」の目標達成に取り組んでいる。	3.4	体力テストで明らかになっている本校全体の課題は、持久力と柔軟性である。コロナ禍による感染防止を徹底しながら、毎回の体育の授業で5分間走を継続して行うことで体力がついており、運動量は確保できている。生徒が目標値を意識して毎時間の授業に取り組めるよう、指導の工夫・改善を図っていく。今後、全教員に具体的な目標・数値を提示し、部活動等、学校全体として協力体制を構築していくことが必要である。特に冬場の運動量確保が必要である。	4.0	・コロナ禍による体力の低下がこの後見られるのか心配です。心身のバランスの影響が気になる。 ・体育祭や部活動の結果から、日頃から着実に取り組まれている成果が伺える。 ・体育祭は意欲的に全体で盛り上がるので、目標をより明確にすれば体力も向上すると思う。 ・体育での5分間走は良い伝統だと思う。
9	学校は、学ぶ環境づくりに取り組んでいる。	3.4	大規模改修後、きれいな校舎を維持すべく生徒は自分の役割を果たし、清掃に取り組んでいる。今後は隅々まで丁寧に清掃するなど、質の向上を図っていく。緑化の面で、「花が迎える学校」を意識して整備を進めている。環境美化の取り組みについて教員が1つ課題を持って取り組んでいる。生徒の正しい言葉遣いについては、まずは教員が常に意識をして率先垂範して生徒をより良い方向に導き、指導を進めていく必要がある。	3.8	・大規模改修後も、きれいな校舎が維持されている。 ・清掃が行き届いていて、生徒の頑張りが見える。 ・生徒一人一人がきちんと挨拶できる。 ・隅々まで丁寧に清掃されている。 ・学ぶ環境、タブレット活用の幅を増やしても良いと思う。
10	学校は安心・安全な教育環境づくりに努めている。	3.5	月に一度安全点検を行い、施設の瑕疵が発見され次第、事務主事を中心に速やかに修繕を行っている。災害時・避難時の対応、教員間の連携や誘導体制、不審者対策について、今後より工夫を図り、組織的に対応していく。業間時に実施するなど、緊張感のある訓練の工夫改善をしていく。	4.0	・災害は突然来るので、常に危機意識のある訓練を続けてください。 ・学校の保護者あてメールを活用して、防犯情報を周知できている。
11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	3.6	HPの更新を地域により見やすく興味を持っていただけるように大幅に変更した。ブログも定期的に掲載している。学校だよりの関係機関での掲示や自治会への回覧等、今後も継続していく。学校に寄せられた連絡についてどのように対処するのか学校だよりに明示し、地域に周知を図り、苦情対応も親身に耳を傾け早急に行った。今後も内容の精査を行いながら情報発信をしていきたい。	3.8	・学校便りは、学校関係者以外にも見やすくわかりやすい構成になっている。 ・学校だより等で様子がよくわかる。 ・ホームページを大幅に変更していただいた。更新情報をさらに向上してほしい。 ・念願のホームページ改善に取り組んでいただいている。 ・見やすいホームページに向けてさらに頑張してほしい。
12	学校は、家庭・地域社会と連携協力し、問題解決に取り組んでいる。	3.4	生徒指導上の問題については家庭・地域・社会と連携・協力し、解決を図っている。いじめ・不登校について、教育委員会の指導の下、関係諸機関と連携し、改善に努めている。保健だより等により生活習慣の改善・確立について啓発を行っている。特に虫歯治療について機会をとらえて啓発した。今後も、「地域の中の学校」、「地域とともにある学校」という視点を忘れずに連携を深めていきたい。	3.3	・不登校の生徒の解消に向けて、さらなる方策を検討願いたい。 ・保護者の価値観の多様化で益々家庭や地域社会との連携が必要となっていますが良く指導されています。 ・防犯パトロール・通学路点検などPTA活動縮小のため担い手の確保ができていない。 ・コロナ禍で保護者のパトロールを中止にしたが、学校とPTAにて今後と対応について会話ができていない。